

## 第 21 回メキシコ日本語教育シンポジウム 一般発表募集

日時:2016年3月5日(土)、6日(日)

場所:メキシコシティ・日墨協会日本語教室

主催:メキシコ日本語教師会

Asociación Mexicana del Idioma Japonés, A. C. (AMIJ)

助成:国際交流基金

参加費:会員=100ペソ(※別途入会費500ペソ) 非会員=700ペソ

メインテーマ

「会話力の向上に向けて—その測定、評価、そして指導法—」

2015年度メキシコ日本語教育シンポジウムでは、実践・研究発表、ワークショップの一般募集をしております。使用言語は日本語、もしくはスペイン語です。

### 1) 実践報告・研究発表

- a) メインテーマに関係する日本語教育の実践・研究
- b) メキシコ及び近隣諸国の日本語教育事情・日本語教育実践について
- c) 日本語教育の授業運営に関わる実践・研究
- d) その他、日本語教育全般に関わる実践・研究

発表時間は20分+質疑応答10分です。メール本文に「実践報告」または「研究発表」と入れ、下記項目を明記の上、要旨を添付して、Eメールにてご応募ください。

- ① 実践報告か研究発表か
- ② 名前(日本語、及びローマ字)
- ③ 所属(日本語、及びローマ字)
- ④ 連絡先(e-mail アドレス)
- ⑤ 題名(使用言語で)

宛先: [amij.simposio.2016 \[at\] gmail.com](mailto:amij.simposio.2016[at]gmail.com) ([at]は@に置き換えてください)

※Eメールの件名は「abstract\_YOUR\_NAME」(“YOUR\_NAME”には応募者名を記入)としてください。

※要旨の詳細は、後述を参考にしてください。

## 2) ワークショップ

- a) 日本語教育の授業運営に関わるワークショップ
- b) その他、日本語教育一般に関わるワークショップ

メール本文に「ワークショップ」と入れ、下記項目を明記の上、要旨を添付して、メールにてご応募ください。

- ① 名前(日本語、及びローマ字)
- ② 所属(日本語、及びローマ字)
- ③ 連絡先(e-mail アドレス)
- ④ 題名(日本語、またはスペイン語)
- ⑤ 予定時間

宛先: [amij.simposio.2016 \[at\] gmail.com](mailto:amij.simposio.2016@gmail.com) ([at]は@に置き換えてください)

※Eメールの件名は「abstract\_YOUR\_NAME」(“YOUR\_NAME”には応募者名を記入)としてください。

※要旨の詳細は、後述を参考にしてください。

実践・研究発表、ワークショップ、ともに応募締切りはメキシコ時間の2015年12月27日(日)23時59分59秒(※<http://www.greenwichmeantime.com/>参照のこと)です。応募締切りを過ぎての応募は審査の対象にならない可能性がありますので、あらかじめご了承ください。発表の決定は複数人の査読者により匿名で行われます。要旨中に本人が特定できるような記述は避けてください(名前・参考文献著者名等)。発表決定は申し込み後できるだけ早く、ただし2016年1月10日(日)までに必ずEメールにてお知らせいたします。

ワークショップに関しては、時間の都合などで、実践・研究発表での参加を打診させていただく場合がございます。

また、シンポジウム終了後、シンポジウム発表論集への投稿をお願いいたしますが、審査は別に行うため、必ず掲載される訳ではありませんので、ご了承ください。詳細はシンポジウムの後にご連絡いたします。

### 要旨について

- 1 行目にタイトル(使用言語で)
- 1 行空けて3行目にキーワード(3つ程度・使用言語で)
- 1 行空けて、5行目から本文を書き始めてください。

文字数は日本語1000文字、スペイン語250wordsで、Word等をお使いの際はletterサイズ1枚に収めてください。

フォーマットはdocおよびdocx(Wordファイル)、odt(Openフォーマット)、txt(テキストファイル)を受け付けます。

フォントタイプ:MS明朝12ポイント、Times New Roman 12ポイント

また、要旨には参考文献を添えて、以下のように記してください。

## 記載例

### 1. 単行本〈単著・共著〉の場合

鎌田修(2000)『日本語の引用』 ひつじ書房

鎌田修・ボイクマン総子・富山佳子・山本真知子(2012)『新・中級から上級への日本語』

The Japan Times.

Schegloff, E. A. (2007). *Sequence organization in interaction: a primer in conversation analysis*.

Cambridge: Cambridge University Press.

### 2. 単行本〈分担執筆〉の場合

定延利之(2015)「日本語コミュニケーションにおける偽のタブーと真のタブー」鎌田修・嶋

田和子・堤良一（編）『談話とプロフィシエンシー その真の姿の探求と教育実践めざして

（プロフィシエンシーを育てる3）』凡人社

Martín Zorraquino, M. A. & L. Portolés (1999). *Los marcadores del discurso*. En I. Bosque & V.

Demonte (eds.). *Gramática descriptiva de la lengua española*, vol. 3 (pp. 4051-4213). Madrid:

Espasa.

### 3. 学術論文の場合

小柳かおる(2002)「Focus on Form と日本語習得研究」『第二言語としての日本語の習得研究』

第5号, 62-96.

Vázquez C.A. (2015). *Análisis de Oye como Marcador Secuencial y de acción en la conversación*.

En *Estudios de Lingüística Aplicada*, año 33, número 61, julio de 2015, 73-103.

### 4. インターネット情報の場合

日本語教育執筆要領（和文論文）<http://www.nkg.or.jp/journal/j-yoryou.htm#shiryou> (2015年10

月28日)

American Psychological Association. (2015). *The Basic of APA style*. Consultado en el 29 de octubre

de 2015 de: <http://www.apastyle.org/learn/tutorials/basics-tutorial.aspx>